



絆が深まる児童会行事

from 志水小学校

七月四日(水)、児童会主催の「チャレンジ・ランキング大会(通称・チャレラン大会)」を行いました。学級ごとに種目を定め、個人の記録を競い合います。その運営は、各学級で行います。種目説明係、参加者の整理係、審判係、記録係等を分担し活動する中で、自分の役割に責任をもち、協力し合う力を養います。

今年度の種目は次の通りでした。

学級	種目
一年一組・六年一組	わりばしダーツ
一年二組・六年二組	キャップつつし
二年一組	洗面器お手玉投げ
二年二組	エスパークサイコロ
三年一組	紙ちぎりのぼし
三年二組	片足バランズ
四年一組	空き缶積み
四年二組	シャトル飛ばし
五年一組	豆つまみ皿つつし
五年二組	ぞうきんがけ競争

一年生は、六年生に助けってもらいながら一生懸命活動していました。この日までに、一

年生と六年生はべア活動を行ってきており、六年生が絵本の読み聞かせを行ったり、折り紙を教えたりして、信頼関係を築いてきました。当日も、六年生が優しく一年生に教えたり、一緒に教室を移動したりしている姿は大変微笑ましいものでした。六年生からは、「一年生がかわいかった」「一年生に仕事を教えるのは、結構難しかったです」という感想が聞かれ、その表情からは、お兄さん、お姉さんとして責任を果たした充実感が伝わりました。児童会役員や代表委員は、この行事を成功させるため、各種目の好記録を出した児童を随時、放送で紹介したり、開会式・閉会式を運営したりして活躍しました。本校のチャレラン大会は、形を変えながら引き継がれ、今年で26回目。それぞれの種目に楽しんでチャレンジしながら、学級の友達との絆、異年齢の縦の絆が深まる大切な行事となっています。



私の航空史

有名人

岡野允俊

小学校六年生になったとき、担任の先生が「君たちの将来の夢を聞きたい」と一人ずつ各自の夢を発表することになった。最初の生徒は「僕は立派な人になります」と言った。そして次の生徒は「僕は偉い人になります」と言った。すると先生は「立派な人、偉い人は結構だが、どのように偉いのか、例を挙げて言え」とのこと。しばらく沈黙が続いたが突然一人が「僕は南洋へ行って原住民にソロバンを教えます」と言ったらドット爆笑が起こった。先生は「そうか、立派だ」とその子を称えた。そのあと続いて飛行機に乗って空で活躍したい子や、海の中を探検したい子などがいたが、なかには「いろいろ便利なものを発明したいが今では何でもありません。僕が発明するようなものは何もなくなってしまう」と言った子もいた。それから三十年後の昭和四十六年、桜小学校第一回卒業生の同窓会が催された。それぞれ往時の教室に入り、思い出を語り合った。皆平凡ながら平穏な生活を送っていた。南洋で原住民にソロバンを教えると言った子は海軍航空隊に入り訓練を受けていたが戦争は終わり飛行機に乗ることはできなかった。だがなぜか飛行機に縁があり、今度は飛行機を造る側になり新しい飛行機の開発に当たっていた。

こうした昔ながらの、子どもの憧れを夢見て成長してきたが、昨今の子どもと同じ質問をして驚いた。我々と違ってできもせぬ夢を語るのではなく現実的になってきた。それは多くの子どもがただ「有名人」になりたいという。有名人とは功成り名遂げた時になるものである。彼らがいう有名人とは表舞台に立ってテレビに映ればそれが有名人なのであろう。テレビのなかった時代では想像もつかない話である。スポーツ選手も芸能人もテレビやマスコミに出て、ただ有名になればよい、時の波に乗って「イマデシヨ」という一言で有名人になる昨今のスタイルに憧れるのであろう。物を極めて有名になるのではなく、有名になることが先決なのである。いわゆる「目立ちたがり屋」なのである。人間には二種類ありデベソと引っ込みヘソである。テレビのカメラを向けると「イエーイ」とやる人間がデベソ。その反対にカメラを避ける人が引っ込みヘソ。世の中上手くできておりこれらの人が相半ばしてバランスが取れている。デベソばかりでは収拾がつかない。引っ込みヘソばかりでは先へ進まない。

芸人とは代々の伝統芸を忠実に習得し、伝えていこうとする人で、芸人とは単なる目立ちたがり屋である。個人で名を為すもの、集団で名を為すもの、等々々であるが世間に認められ、末代まで名を残すように精進すべきである。この世に生を受けて、そんな人居ったかやと言われない程度に存在を示せばよい。